

書名 項目	新編 新しい書写一・二・三年	2 東 書
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○繰り返しや確かめ等、6つの学習過程を設定し、単元が構成されている。単元ごとに目標を明示し、学習の見通しが持てるよう工夫されている。 ○「書写のかぎ」でポイントを焦点化し、課題に取り組むよう工夫されている。毛筆の穂先の動き等、基本点画の筆使いを朱墨と淡墨を用いて示している。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○学習のポイントを意識させるために、「見つけよう」で書体を比較し説明させたり、指でなぞって考えさせたりする構成になっている。 ○「生活に広げよう」で、効果的な文字の選択や場面・相手の設定等、単元ごとに学習内容を生かした表現活動ができるよう題材を設定している。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○生徒が見通しを持って主体的に取り組めるよう、「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」で構成されている。学習の重点を「書写のかぎ」で示している。 ○「振り返ろう」で、学習目標と連動した自己評価について、自分の言葉で考え、話し合い活動を通して自らの学びを深められるよう工夫している。 </p> <p> <毛筆と硬筆との関連> ○「見つけよう」で硬筆から課題を意識させ、「確かめよう」で毛筆の点画の書き方を確かめる流れとなり、基本点画を効率よく学ぶことができる。 ○「生かそう」という硬筆教材を設定している。文字の配列や点画の変化等、毛筆で書いて確認し、硬筆に生かすという構成で、密接な関連を図っている。 </p> <p> <各教科や社会生活との関わり> ○各学年、「生活に広げよう」という項目が設定されていて、依頼状やお礼状の書き方等、生活の様々な場面を通して、日常生活との関わりを示している。 </p>	
資 料	<p>○姿勢と筆記具の持ち方について、写真を使って解説している。また、「常用漢字表」と「人名用漢字表」は、楷書体と行書体を併記している。</p>	
表記・表現	<p>○見開きの右ページに目標と学習の流れ、左ページに教材文字が配されている。 ○左利きや色覚のある生徒への配慮、特別支援教育の視点に立った見やすい文字等、ユニバーサルデザイン化を図っている。運筆指導の工夫も示している。</p>	
総 括	<p>○書写の知識や技能が習得できるよう、行書の特徴的な動きをパターン化し、繰り返し確かめることで、学習内容の定着が図れるよう構成されている。 ○書写での学びを、日常生活に生かすことができるよう題材が設定されている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">現代の書写一・二・三</h1>	15 三省堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元が7つの過程を経て学習を進める流れになっており、具体的な字形例を挙げて、書き方のポイントが示されている。また、すべての教材に、学習目標と振り返りが設定されている。 ○毛筆の筆使いについて、筆圧、穂先の動きを色分けし、大きくわかりやすく示している。また、行書では、全体的な特徴を示した後、細分化して個々の特徴を学習できるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○学習目標と連動した課題が疑問の形で示されている。 ○「見つけよう」の問いでは、「書体を比較して学習のポイントを捉えること」、「やってみよう」の問いでは、「学習内容を生かして表現する活動に取り組むこと」ができるよう構成されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各単元が「書き方を学ぼう」「書いて身につけよう」と大きく二つに分かれており、生徒が主体的にポイントを捉えて取り組むことができるよう構成されている。 ○学習後の振り返りが、学んだことを自分の言葉で記述できるよう工夫されている。 ○「豊かな文字文化にふれる」の中で、文字を書くことの意義についての学びを深めるため、文字に関わる「達人」が紹介されている。 </p> <p> <毛筆と硬筆との関連> ○毛筆の「書き方を学ぼう」の学習後、「書いて身につけよう」の硬筆課題が設定されており、毛筆と硬筆の関連がわかりやすい。 ○毛筆で学んだことを硬筆に生かすため、古典や身の回りの様々な書式を硬筆で書く学習が取り入れられている。 </p> <p> <各教科や社会生活との関わり> ○「やってみよう」という課題が設定されており、国語の教科書掲載の作品の学習だけでなく、発展課題として、新聞、情報誌、名言集などが挙げられている。また、「書いて身につけよう」の都道府県名については、日本地図や県の特徴などがミニ知識として載せられている。 </p>	
資 料	<p> ○書写の基本である「姿勢や用具の持ち方」について、写真を使って示している。 ○資料編では、日常の書式（便箋、封筒、葉書）など、他教科や日常生活の中で生かすための課題が設定されている。また、随所に写真図版や解説が取り入れられている。 </p>	
表記・表現	<p> ○ユニバーサルデザインへの取り組み（重要な項目を目立たせる。識別しやすい配色、各教材が見開き2ページで構成など）が充実している。また、手本では、筆の動きがわかりやすく示されている。 </p>	
総 括	<p> ○学習の見通しをもち、主体的に学習を進め、次の学びへの意欲が得られるよう学習ポイントや学習内容が一覧で示されているなど、教材の構成に工夫が見られる。 ○日常生活の多様な場面で、既習事項を活用できる力を身につけることができるよう構成されている。 </p>	

書名 項目	<h1>中学書写</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「姿勢」や「持ち方」の習慣化に向けて、図解と振り返りで確認できるよう工夫されている。また、左利きの生徒への対応も、図で示されている。 ○行書ならではの筆使いの定着が図れるように、穂先の通り道を朱墨で示されており、連続した筆使いが理解しやすい構成になっている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○自分の考えを文章でまとめる活動や、話し合い活動に活用できる部分があり、思考を整理する方法が身につく構成となっている。 ○書体や文字同士を比較したり、その違いを考えたりしながら、学習のポイントを意識できるよう構成されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○学習手順が毛筆教材紙面と連動され、わかりやすく明確になっており、毎時間の学習の進め方が理解しやすくなっているため、基礎・基本の定着を図ることができる。 ○学習目標と連動した自己評価を「○」や「△」などで簡単に振り返ることができ、自らの学びを確認できるよう工夫されている。 </p> <p> <毛筆と硬筆との関連> ○毛筆で学習した行書の書き方を、硬筆の学習に応用できる教材が数多く例示されている。 </p> <p> <各教科や社会生活との関わり> ○各教科の書く活動や、実社会で活用できるような内容が豊富に掲載されており、日常生活でも生かしやすい構成となっている。 </p>	
資 料	<p> ○巻末の「漢字一覧表」では、小・中学校で学習する常用漢字が部首ごとに楷書体と行書体で掲載されているので、共通する点画や似通った部分をすぐに確認することができ、学習したことを応用しやすい構成になっている。 </p> <p> ○文字文化の系譜がわかる資料が扱われており、国際的な視点から文字文化を捉えることができるようになっている。 </p>	
表記・表現	<p> ○書写用具を提示しており、話し合うときのポイントを絞ることができ、話し合い活動の活性化を促している。 </p>	
総 括	<p> ○紙面を半紙形にし、書き始めの位置や字形の整え方、文字の大きさや余白とのバランスなどがわかりやすくなるように作られている。 </p> <p> ○日常生活など社会で活用できる資料や、他教科で扱う言語活動の書式が掲載されており、考えて伝える力が身につく構成になっている。 </p>	

<p>書名 項目</p>	<h1>中学書写一・二・三年</h1>	<p>38 光村</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○楷書における点画の書き方や筆順について、イラストを用いて丁寧に解説している。 ○行書体における崩し方や連続のさせ方について、複数のかたちを紹介している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○自分らしい書体と文字の書き方について紹介し、学習者が書写を実生活で活かせるように工夫している。 ○場面に応じた書体の使い分けの資料が豊富で、自分の目的に応じて参考資料としても使えるように編集されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○資料が豊富であり、様々な角度から学習者の興味関心を引き、自ら学べるように工夫されている。 ○行書索引を掲載し、自分の名前や書写の作品などについて、自分に合った崩し方が選べるようになっている。</p> <p><毛筆と硬筆との関連> ○毛筆と硬筆の解説部分を分けることにより、学習者が情報を探しやすくなっている。 ○「書写ブック」を活用することにより、硬筆の練習を行えるようになっている。</p> <p><各教科や社会生活との関わり> ○社会生活や進路決定に役立つ、手紙の書き方や入学願書の書き方の資料も掲載されている。 ○手書きの良さを活かしたポスター作りの資料もあり、生徒が情報発信者として活動するための情報が豊富である。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○硬筆の練習を集中的に行える別冊資料がある。 ○全体的に写真やイラストを使用するとともに、ポイントとなる部分をカラーで表示したりするなど視覚的にわかりやすくなっている。 ○毛筆の朱書きによって、筆の運び方や角度などがわかりやすくなっている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○見開きで学習目標と学習の流れが確認できるようになっている。 ○各単元に、活動のめあてが掲載されており、生徒が見通しをもって取り組み、学習を振り返ることができるように工夫されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○書写に対する生徒の興味関心を引く工夫が随所に見られる。 ○生徒が困難を感じやすい楷書から行書への移行や毛筆の筆運びについて、視覚的にわかりやすい資料と丁寧な解説を掲載することで、手厚い支援ができるように工夫されている。</p>	